

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2011年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都大学(中央)学生寄宿舍吉田寮	階数	地上3F地下1F
建設地	京都府京都市左京区吉田二本松町	構造	木造
用途地域	第一種中高層住居地域、準防火地域	平均居住人員	70人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	5,475時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年11月 予定	評価の実施日	2013年9月30日
敷地面積	13,238㎡	作成者	株新日本設備 株内蔵建築事務
建築面積	586㎡	確認日	2013年9月30日
延床面積	2,096㎡	確認者	京都大学施設部整備課



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

■建設 ■修繕・更新・解体 □通用 □オンサイト □オフサイト

①参照値 100%
②建築物の取組み 79%
③上記+②以外の 79%
④上記+ 79%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項	
総合 周辺環境との調和・・・既存建物との調和、緑地・樹木の維持 環境への配慮・・・木造とすることでLCCO ₂ の削減を図る 住環境への配慮・・・インナーバルコニー・中庭を設けることによるプライバシーの確保 中庭・ドライエリア・片廊下型の配置などによる風通しのよい住環境	その他 0
Q1 室内環境 遮音・断熱・・・複層ガラス・グラスウール等特に外部に対する遮音性能・断熱性能に配慮 採光・換気・・・開口部を多く確保し、カーテン・庇等で屋光制御へも配慮	Q2 サービス性能 自然素材・・・内外装に木材等自然素材を多用 耐震性・・・建築基準法の25%増の耐震性 更新性・・・階高地下4.2m・地上3.5m、移動間仕切りの採用で空間の更新性に配慮
LR1 エネルギー 自然エネルギー・・・太陽光発電、中庭・片廊下配置による風の通りやすさに配慮	LR2 資源・マテリアル 材料・・・持続可能な森林から産出された木材を多用、F☆☆☆☆を全面的に採用 資源・・・既存建物を継続して利用する
Q3 室外環境(敷地内) 緑地・・・既存樹木の維持、舗装を最小限にし芝生等の採用 快適性・・・ピロティ・インナーバルコニー・中庭等建物の内外部をつなぐ中間領域の充実	LR3 敷地外環境 外壁反射・・・外装に木材を全面的に使用し、グレアを起こさないように配慮 雨水流出抑制・・・一定量までの雨水流出抑制による周辺環境への配慮

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される